

製品名: MYH ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14286**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	MUTYH
別名	MUTYH; MYH; A/G-specific adenine DNA glycosylase; MutY homolog; hMYH
遺伝子 ID	4595.0
SwissProt ID	Q9UIF7
免疫原	抗血清はヒト MUTYH 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 151-200

背景

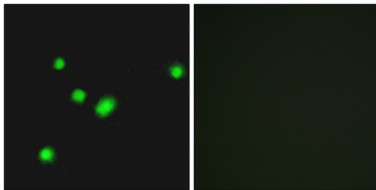
この遺伝子は、酸化的 DNA 損傷の修復に関与する DNA グリコシラーゼをコードしています。この酵素は、DNA 骨格中のアデニン塩基を、アデニンがグアニン、シトシン、または 8-オキソ-7,8-ジヒドログアニンと不適切に対合している部位（酸化的 DNA 損傷の主

要な病変) から除去します。このタンパク質は核とミトコンドリアに局在します。この遺伝子の変異は、大腸がんおよび胃がんの遺伝的素因を引き起こします。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、補因子: 1 4Fe-4S クラスターに結合。このクラスターは触媒活性には重要ではないが、DNA 鎖に沿った酵素の適切な配置に関与していると考えられる。疾患: MUTYH の欠陥は、常染色体劣性大腸腺腫性ポリポーシス[MIM:608456]の原因である。疾患: MUTYH の欠陥は、胃癌[MIM:137215]の原因である。機能: 酸化的 DNA 損傷修復に関与する。DNA 骨格から不適切に対合したアデニン塩基を除去することにより、A*oxoG から C*G への修復を開始する。アデニンと 2-OH-A の両方の DNA グリコシラーゼ活性を有する。類似性: nth/mutY ファミリーに属する。類似性: 1 つの nudix 加水分解酵素ドメインを含む。

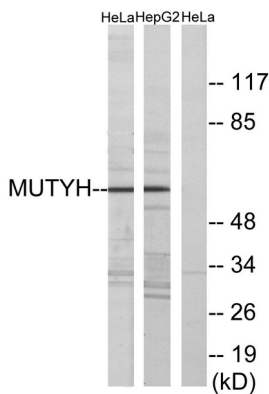
研究分野

塩基除去修復

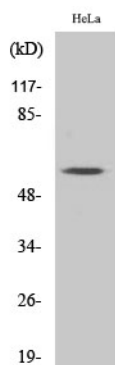
画像データ



MUTYH 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



MUTYH 抗体を用いた HeLa 細胞および HepG2 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 に希釈した MYH ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。